

## 建学の精神

セブンスデー・アドベンチスト (SDA) 教団の百有余年の教育活動の基本は、聖書に示されている人間像すなわち霊性と知性と身体のバランスのとれた人間像の回復であり、それを「三育教育」と称してきました。

神をすべての価値の源として真理を探究し、自己と他者の尊厳を重んじ、より良い社会の形成を目指し、それに貢献できる人物の育成が、広島三育学院の建学の精神であり使命です。



広島三育学院 校章・マーク  
この三角形は、キリストの十字架を中心としてその人の体 (Physical) と心 (Mental) と魂 (Spiritual) の力 (Powers) が全生涯にわたって調和のとれた発達をしていくことを表わしています。

## 学校法人 広島三育学院

〒730-0048 広島県広島市中区竹屋町4-8

TEL : 082-245-4469 FAX : 082-245-4431



## 創立

広島三育学院の始まりは、1898年(明治31)、アメリカに本部を置くプロテスタントの教派 セブンスデー・アドベンチスト教会 (SDA) の宣教師 W・C・グレンジャーによる〈和英聖書学校〉(東京・芝)の創立に遡ります。

1926年(大正15)千葉県房総半島の美しい松林の丘をキャンパスに選び、教師、生徒の手で〈日本三育学院〉が建てられました。太平洋戦争中、〈日本三育学院〉が教える信仰と平和思想のために国から弾圧を受け、学校閉鎖の苦難を経ましたが、終戦とともに小・中・高・カレッジを併設して再開。その後も、国内外に多くの卒業生を送り出してきました。

やがて、京葉地帯の都市化、工業化に伴う教育環境の変化によって、新しい理想の地を求めることとなり、1977年(昭和52)中学と高校は、三育学院短期大学・カレッジから分離し、広島県大和町(現・三原市)に移転したのです。

旧・大和町は、1955年(昭和30)豊田郡大草村、榎梨村、豊田村、世羅郡神田村の4カ村が合併して誕生しました。広島県のほぼ中央に位置し、最も低い標高265mの白竜湖から最高460mの間に集落が分布しています。

1983年(昭和58)隣町に広島空港の開港が決定したことから、〈臨空田園の都市—だいわ〉のキャッチフレーズのもと、魅力ある地域づくり構想がスタートされました。

広島三育学院には、大和キャンパス(本校)と、竹屋キャンパス(広島市竹屋町)があり、大和キャンパスには〈竹屋キャンパス農園〉が設けられています。2009年(平成21)の国勢調査による大和町の人口は、7000人弱で、人口の過疎化傾向に歯止めはかかっていません。しかも高い高齢化率を抱えています。広島三育学院中学校・高等学校は全国でも珍しい男女共学の全寮制で、大自然の中でさまざまなことを学びながら、豊かな環境の中で学んでいます。

## 創立の背景と歴史

セブンスデー・アドベンチスト教会(SDA)は、19世紀中頃にアメリカで起こったウィリアム・ミラーを中心とする再臨運動に源を発しています。名前にある「セブンスデー」とは、「第7日」の意味で、これは週の第7日である安息日を聖日として守る教会であることを表わしています。また「アドベンチスト」とは、聖書の重要な教えであるキリストの再臨(アドベント)を待望する人々を意味します。

SDAの名称が採用され、アメリカで宗教団体として正式に組織されたのは1863年(文久3)のことでした。当初数十人の集まりでしかなかったSDA教会は、その後世界中に広がりました。

日本における正式な活動は、1896年(明治29)アメリカ・ヒルズバーグ大学の学長を辞して来日したW・C・グレンジャーによって開始されました。日本のSDA教会は、100を超える教会と、1万4000人余の信徒を有し、教会活動と合わせて、教育、医療、食品、出版、放送、福祉など諸事業を通して、人々の心と体の健康に奉仕しています。

また、教育に大変力を入れており、全世界に数多くの系列校(大学・大学院:99校/中学・高等学校:1214校/小学校:1262校)を持っています。これらは高校在学中の短期留学(1年間)や卒業後の大学留学に活用されています。

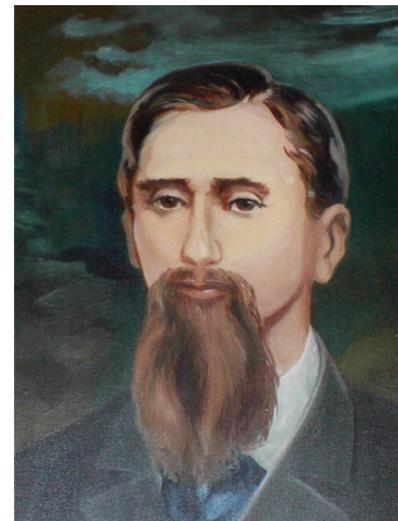
1923年(大正12)7月7日の安息日、午後3時に天沼教会の礼拝堂で特別集会が催され、第3回の総会の出席者が集まりました。

はじめに世界総会のギルバート牧師が、非常に霊的な勧めをし、日本における働きのため立派な働き人が必要であること、そのために好適に学校を開設すべきであることを訴えました。

そして、「学校建設のために、今ここで5万円の献金を捧げよう」と全員の献身をうながしたのです。現在の数億円にも相当する、5万円という莫大な額に一同は驚き、呆然としました。到底不可能な額と思ったからです。しかし、なおもギルバート牧師は熱心に訴え続けました。集会の雰囲気はいつの間にか厳粛なものへと変わっていききました。

そのとき、連合伝道部会会計H・J・パーキンスが現われて、ある人から「学校のために財産を売り払って2万円を捧げる」という申し出があった、と発表したのです。これを聞いて一同は感動し、各自持ち物を皆、捧げる決意で献金を約束しました。

大河平長老は涙に震える声を上げ、自分にはお金はないが、すべてを捧げて献身すると証をしました。一同は次から次へと、献金を約束しました。こうして日本三育学院の建設が始まったのです。



創立者 William Calhoun Grainger (1843~1899年)  
アメリカ・カリフォルニア州の  
パンフィック・ユニオン大学学長を辞して、  
日本伝道のために来日。

